

株式会社ちふれ化粧品

2011年9月12日

CO₂削減効果の高いバイオポリエチレン製容器の導入を開始 -より環境に配慮した商品展開へ-



株式会社ちふれ化粧品(本社:埼玉県川越市 代表取締役社長:片岡方和)は、2011年9月中旬より、環境保全活動の一環として、同社製品への、CO₂の排出を効果的に抑える、バイオポリエチレンを原料とする容器の導入を開始します。

今回採用されるバイオポリエチレンは、ブラジルの大手化学メーカー「プラスケン」が本年より商業生産を開始した注目の素材。サトウキビを原料とする植物由来のバイオプラスチックで、優れたCO₂削減効果を持ち(従来の石油由来ポリエチレンと比較すると70%強の温室効果ガス削減効果有り ※同原料の輸入代理店、豊田通商株式会社調査)、今後、環境保全に力を入れる様々な業種の企業で、容器や包装材としての活用が期待されています。



【バイオポリエチレン製容器】

商品の背面にはバイオポリエチレン使用と記載



【従来のポリエチレン素材の容器】

●バイオポリエチレンの由来と環境への影響について

今回の包装容器に使用されるバイオポリエチレンは、サトウキビから砂糖を取った後に残る残糖液から製造されています。残糖液を使用することから、砂糖生産を犠牲にすることなく製造することが可能で、食品競合や食糧価格の上昇への影響は少ないと考えられています。また、本原料に使用されているサトウキビは主に牧草地を転換して増産されており、新たに森林を切り開く、また生態系を破壊するといったことがなく製造することが可能です。

ちふれ化粧品では、まずは9月中旬より地婦連(全国地域婦人団体連絡協議会)専売品の「増量美容液」で、このバイオポリエチレン製容器を導入し、今後、量販店、ドラッグストア、百貨店などで販売する一般品を含めて、従来石油由来のポリエチレン素材を容器に使用していた製品にも、この環境にやさしい容器の導入を順次進めていきます。

創業当時より、ちふれ化粧品は「一人ひとりのゆたかな生活」を開発する企業であるという基本理念に基づき、環境問題への取り組みを重視し、他社に先駆けて、様々な環境保全活動に取り組んでまいりました。

1974年には、「今あるものを大切に」というスローガンのもと、容器のリユースによる省資源を目指し、業界初の詰め替え化粧品を採用。また、1981年には化粧品業界で初めて、燃やしても有毒ガスを出さないPET樹脂製容器を開発・導入しました。さらに、同年、フロンガスを使わないスプレーを発売。1989年にスタートした「エコマーク」制度の第1号商品として認定されました。そして2010年、こういった省資源をはじめとする、環境に配慮した商品開発に取り組んできた結果、自社商品の製造拠点である川越工場が、国際規格のISO14001を取得しました。

今回のバイオポリエチレン製容器の導入は、こうした同社のこれまでの環境保全への取り組みを継承し、当社が独自に策定した環境方針を具現化するものです。
ちふれ化粧品はこれからも環境にやさしい商品開発に努めてまいります。
